

鹿野川ダム改造事業完成

1. はじめに

鹿野川ダムは、愛媛県西南部を流れる一級河川・ひじかわ 肱川の河口から上流約41kmに位置する重力式コンクリートダムである。肱川は、流域面積1,210km²、幹川流路延長103kmの県下最大の河川であり、鹿野川ダムは、肱川総合開発事業の一環として、肱川水系の洪水調節及び水力発電を目的として昭和34年3月に建設された。

肱川流域は、中流部の大洲盆地に支川が集中して、河床勾配が緩く、また、河口付近の川幅が狭いため、洪水被害が発生し易い特徴を有しており、近年では、平成7年、平成16年、17年、23年に大規模な洪水被害が発生している。また、西日本豪雨（平成30年7月）では西予市も含めた広範囲地域で大規模な洪水被害が発生した。

2. 鹿野川ダム改造事業の概要

鹿野川ダムでは、平成18年に愛媛県から国土交通省に管理を移管し、肱川水系河川整備計画に基づき、①洪水調節機能の増強、②不特定用水の補給、③貯水池水質改善を目的とした鹿野川ダム改造事業

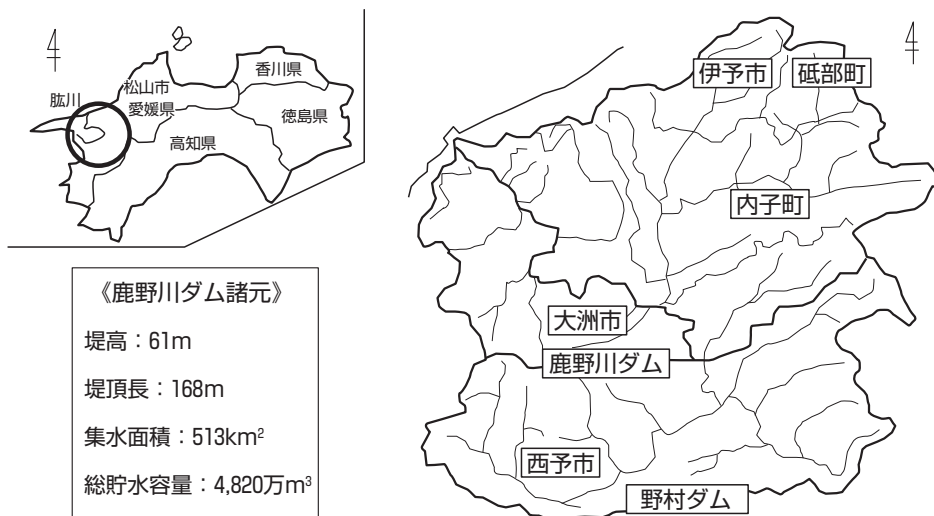
に着手した。

洪水調節機能の増強を目的としたトンネル洪水吐新設について紹介する。既設の鹿野川ダムのクレストゲート（敷高EL.76.0m）は高い位置にあり、低い水位の時には貯める必要のない水を下流側に流すことができず、洪水調節容量を有効に活用することができないという課題があった。このため、貯水池内の低い位置（EL.53.0m）にトンネル洪水吐を設置し、低い水位での放流能力を高めることにより、洪水調節容量を従来（1,650万m³）の約1.4倍（2,390万m³）に増やすことで、治水機能の増強を図ることとした。

本改造事業は令和元年6月に完成した。

3. 鹿野川ダム改造事業完成式の開催

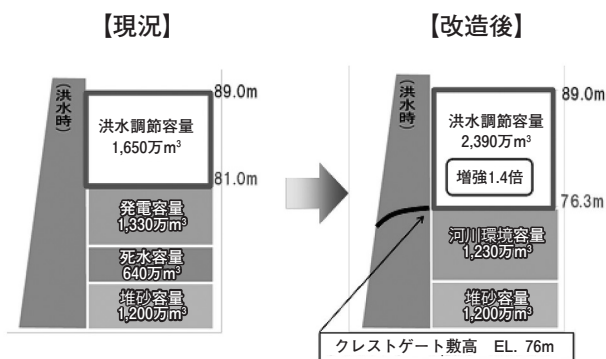
令和元年6月9日、大洲市肱川町「風の博物館」にて、四国地方整備局主催による完成式を挙行了。式典には、国会議員、愛媛県副知事、大洲市長、西予市長、内子町長、国土交通省水管理・国土保全局治水課長、地元関係者など、総勢約200名に参加していただいた。



位置図



鹿野川ダム改造事業の概要



ダム容量配分図



鹿野川ダム改造事業完成式 くす玉開披

式典の最初に、平成30年7月豪雨によりお亡くなりになられた方々のご冥福を祈り、参加者全員による黙祷を行った。

その後、国土交通大臣政務官による式辞、引き続き国会議員、愛媛県知事（代理：副知事）、肱川流域総合整備推進協議会会長（大洲市長）による祝辞をいただき、山鳥坂ダム工事事務局長より事業概要説明、^{やまとさか}肱川小学校の児童のみなさんと一緒に「くす玉開披」を行い、安楽寺陣太鼓保存会による歴史ある和太鼓の演奏にて最後を飾っていただいた。

4. おわりに

平成18年の着工以来、地元の皆さまをはじめ多くの方々のご協力をいただき、鹿野川ダム改造事業を無事に完成することができた。

トンネル洪水吐が完成したことによる洪水調節容量の増加に伴い、令和元年6月6日に野村ダムと鹿野川ダムの操作規則を改定し、肱川本川にある2つのダムの洪水調節能力を最大限有効に活用できるようになった。これからも、肱川流域の安全・安心を担ってまいりたいと思う。

（国土交通省 四国地方整備局 山鳥坂ダム工事事務局長 麓 博史）